

AQUA CULTURE NETWORK
ACN REPORT

No.12 2000.JAN

ACNレポート12号/2000年1月25日発行
発行人 田嶋 猛(ACN代表)
編集 ACN事務局
〒838-0141 福岡県小郡市小郡 1139-1
(株)田中三次郎商店内
TEL0942-73-1111 FAX0942-72-1911

CONTENTS

| | | |
|----------|--------------------|-----------------|
| ■新年ご挨拶 | 更なる淘汰の年の幕開け | ACN会長／田嶋 猛 |
| ■種苗生産速報 | 1999年8月以降の中間経過 | ACN総評 |
| ■養殖概況 | 低迷脱せるか?アユ業界の2000年代 | (有)松阪製作所／松阪種千代 |
| ■防疫概況 | 見直される漁場環境 | (株)サンダイコー／藤原 和宏 |
| ■新製品 | 新型読み取り器『FS2001F』 | (株)田中三次郎商店 |
| ■ACNラウンジ | 各社幹部候補生便り | |
| ■新年ご挨拶 | ACN副会長ご挨拶 | 大阪魚市場(株) 福田 功一 |

新年のご挨拶

更なる淘汰の年の幕開け、持ち味を生かした経営努力で切り開く。

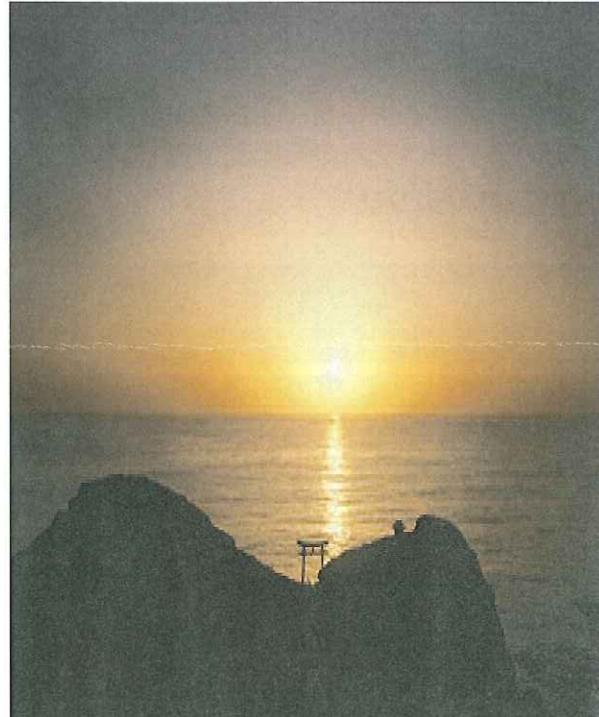
ACN会長 田嶋 猛

謹賀新年 本年もよろしくお願い致します。

■心配されていたY2K(コンピューターの2000年問題)も何事もなく皆さんほっとしておられることと思います。通信・情報関連業界以外では不景気という言葉に殆どの人が慣れきってしまい今更ながらという気さえしますが、ACNレポートのバックナンバーをめくってみると1994年の新年の挨拶に「野生の世界に不況は無用」と強がった一文を書いています。ところが2000年になっても景気は似たような状況であるということはすでに丸6年、この業界は不景気と淘汰の波に揉まれ続けていることになります。この間、下り坂を滑り落ちないように必死に耐えながらも経営が行き詰った会社も十指に余ります。

■今年こそはといった楽観的な考えはもはや誰もも信じなくなってしまい、身の丈にあった、正しい経営をしなければ明日は我が身という危機感をひしひしと感じています。

種苗生産専業者の中にも、養殖を兼業としてキャッシュフローの改善を図ろうとする傾向や得意な単独魚種だけで勝負をかけたりと各社独自性を出し始めています。公的機関では事業場の存続そのものが問われたり大幅な予算削減が始まっています。このようにこれから数年はむしろ今まで以上に厳しいサバイバルレースになると思いますが、必ず勝ち組に残るとの信念で頑張りましょう。



1999年8月以降の中間経過

前回号で1年間の総括として御報告申し上げたが、以後の傾向も同様に厳しい様相で推移しており、特筆すべき話題には乏しいのが現状である。ヒラメ、トラフグ成魚の輸入物も日常的となった現在、標準的な原料(種苗)へのオーダーはさらの一層の低下も予想される。

前回同様、「川下まで見据えた経営体への変革」を進めるためにも、積極的な交流、情報入手が生産管理同様の堅実経営の手段と思われる。

総 評

世間では上場企業の好決算の朗報が伝えられるなか、年末というのに養殖活魚・天然鮮魚とともに高級魚といわれた魚価の低迷が続いている。その中にはアユやシマアジのように生産量が減少しているのに魚価が下げたという最悪のものさえある。

「本業界は好況感に対してタイムラグがあるといわれている」が、それが原因だけならいいのだがと思わずにはいられない。

ヒラメ



「早期不調」も以後の活発な需要喚起せず。

■10月出荷の早期ものに対しては需要が見込まれたために夏越し用の受精卵の引き合いが多かった。しかし産卵は結局9月にずれ込みカネト水産、電発緑化センター、三井農林海洋産業が殆ど同時期に出荷することになった。

今シーズンも日清マリンテックが他社に先駆けて早期物を出荷したが、その後は、まる阿水産を除き各社とも早期物の生産は不調であった。

■このようなときは、本来なら種苗需要は活発

になるはずであるがヒラメ成魚の低迷（年末なのに1kg物で浜値1800円/kg）が原因で成魚の動きが悪いため池が空かず稚魚の動きも悪く、ちょうどバランスがとれているという皮肉な結果になっている。

■99年末までの出荷数量は約450万尾で（昨年850万尾）で価格は120円/尾から70円/尾まで。

★トピックス—韓国から種苗輸入—

全般的に昨年早期物の出来が悪かったためか年末までに約40万尾の種苗が輸入された模様で今後の評価が注目される。

トラフグ



早期堅調。拡大する中国のトラフグ養殖。

■99年末までに近畿大学をはじめ3社が超早期種苗を出荷し、大島水産種苗など数社が年末までに採卵した。4月までの早期種苗を導入できる養殖漁場は限られているものの、当歳魚で出荷できるメリットは養殖業者にとって大きいために早期種苗の引き合いは強い。

■トラフグ種苗についても親魚入手法の多様化、親魚養成・採卵技術の発達によりマダイやヒラメと同様に出荷の分散化（季節性がなくなる）の傾向が見受けられるようになってきた。

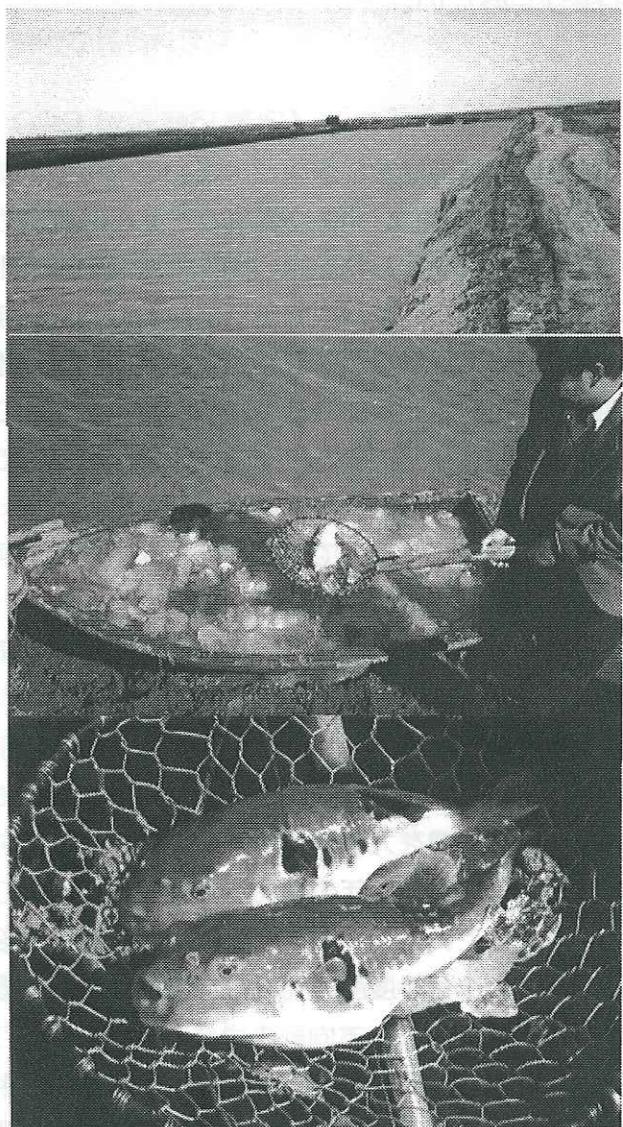
■キロものでは5000円/kg以上の単価が1年間以上続いたが、昨年11月末頃から価格の下落が始まり荷動きも悪くなってしまった。

トピックス—中国から成魚輸入—

中国の渤海湾周辺のエビ養殖場（写真参照）で

養殖されたトラフグが9月から10月に輸入された。サイズは400g／尾～800g／尾で日本到着価格は2500円/kg～3000円/kgで始まりその後急速に上昇した模様である。

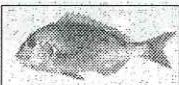
空輸と冷蔵コンテナによる氷締めした物と活魚船による活魚が輸入された。



写真上/海老と混養されているトラフグ養殖場
(中国天津市郊外)

写真中・下/ボートの中で氷締にされたトラフグ

マダイ

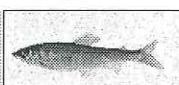


需要に見合った生産傾向が続く。

■長期間に及ぶ魚価低迷のため明るい話はないものの山崎技研をはじめ種苗業者は例年同様、肅々と種苗生産を開始している。販売可能な範囲で生産計画しているようで、何ラウンドもやって能力いっぱい出来るだけ作るという業者はいないようである。種苗価格の下落により利益が激減し販売不可能な時のリスクが増大したことで市場原理が機能し始めたようである。

■種苗価格についてはシマアジを除きどの魚種も似たような傾向であるが特にマダイは相場的なものではなく生産者・中間業者・養殖業者の力関係でバラバラである。

アユ



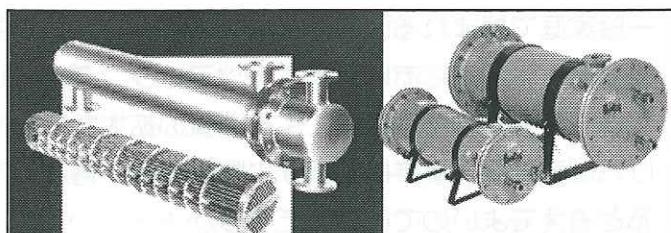
放流用種苗の生産は順調。

■成魚価格が高騰のためレストランのメニューから外されてしまったのか生産量は少ないものの昨年9月には価格は700円/kgと一時の半値まで落ちてしまい、当然ながら種苗の動きも今一歩という状況である。

■価格は0.5gサイズで12円/尾から馴致0.4gサイズで8円/尾である。

湖産種苗から人工種苗へのシフトは順調に進んでおり、関東以北の公的機関等で放流用種苗の生産意欲が強いことが唯一明るい材料である。

(敬称略)



YAMAICHI

TITANIUM

株式会社 山一製作所

養殖概況

低迷脱せるか？アユ業界の2000年代

(有)松阪製作所 松阪 種千代

古来より日本の河川に生息し、香魚とも言われ多くの人々から釣や味覚を通して、馴染みの深いアユにここ数年の間に大きな変化が起きています。すでに周知のことながら2000年を迎えた今、その生産と需給を通して、敢えて今後の動向を探ってみたい。

種苗の生産

■採捕量の不安定な天然種苗をカバーすべく、30年前頃より各地で人工種苗生産の研究が始まり現在ではほとんどの都道府県の栽培漁業施設や種苗センター、試験場、内水面漁協などの公的機関に、10数社の民間種苗業者で量産されている。一説によれば、今年の生産出荷量は1億5千万尾以上になるであろうと言われている。

■天然種苗の採捕は、琵琶湖産が昨年末までに約50トン(尾数換算約1億尾)が池入れされた。

さらに鹿児島の鶴田ダム、池田湖産も少量ながら出荷されている。

浜名湖の海産種苗も例年を超える量が見込まれており、他地域合わせ海産種苗は5~7千万尾と予想される。2月から6月には琵琶湖産の採捕が継続されるが、主に放流用と冷凍用の養殖に向けられる。尚、上記の種苗の内、養殖用と放流用の比率は、人工で約30%、湖産と海産で約80%が養殖用に廻るものと思われるが、歩留まりを60%程度として換算すれば、大体の生産出荷量を判断できるのではなかろうか。

養殖の傾向

■ここ数年来アユ養殖にあたり頭痛の種になっているのが冷水病である。現在の所、投薬により一時的に押さえることができても、常に再発の恐れがあり同じ薬品による治療は効果が薄く、かえって種々の投薬でシードモナス菌による発病が爆発的に起きるケースが多発している。一旦シードモナス病が発生した区の魚は、絶対に完治しないだけではなく、徐々に斃死するか一度に全滅するので、いち早く処分する必要がある。

■人工産の弱点は冷水病などに罹ると天然産に比べて歩留まりが悪い。「他の種類のアユとは絶対近くで飼育できない」これは同じ比率ではないが奇形魚率も高く、その発見が中間魚や成魚に成長するまで難しいため、無駄なコストをかけた上に歩留まりが悪化するという結果になる。さらに、人工産アユの別の問題点として指摘されることは、天然アユに比較して「外形的に比較して見劣りする」とことや「手触りも“ザラッ”として粗い」など玄人からの評価が下がることがある。

■これらの要因が重なり合い、この2~3年はアユ全体の生産量で見る限り下降傾向を示している。

需要と供給の動向

■ここ2~3年の不況は、家庭の食材や料理店におけるアユの消費を大幅に減少させた。冷凍アユの在庫が平成9年と10年の製品合わせてまだ1000トン以上残している。11年度産を合わせると大変な量になり、12年度産の売れ行きに暗い影を落している。

生産、供給の面では国内での養殖場の増設は皆無だが、韓国と台湾では2~3年前に日本より卵を入れ飼育を始めており、日本へは冷凍加工品として持ちこんでいるようだ。中国においても、アユ養殖の準備を始めたとの情報も入っている。こうした現状を踏まえ2000年のアユ産業の動向を考えたとき、一般家庭で好まれる画期的な食材の開発による需要の促進と、河川におけるスポーツフィッシングや、レクリエーションの啓蒙などによる消費の拡大ができなければアユ関連事業は、まず斜陽化を避け得なくなると考えてよいのではないだろうか

防疫概況

見直される漁場環境

(株)サン・ダイコー アグリ事業部 藤原和宏

養殖漁場の環境状態の善し悪しは、養殖魚にとって成長、病気の発生、歩留まりにおいてかなりの影響が出てくるものと思われます。昨年の各地区の魚病発生状態を診ても環境要因を起因とする被害が広がる傾向が見られます。

【1999年各地区概況】

長崎県一[ハマチ] 類結節症の病勢弱く、連鎖球菌症の病勢が強かった。(薬剤耐性菌も多い) [トラフグ] 昨年に比べ白点症は少なかったが、口白症は当才、2才魚共に発生が多かった。

熊本県一[ハマチ] 夏場のイリドウィルス感染症、秋口のノカルジア症の病勢が強く、被害は大きい。
[トラフグ] ヘテロボツリウム(エラ虫)の付きは多かったが、口白症、ヤセ病共に昨年より少なく歩留まりが良かった。

大分県・宮崎県一[ハマチ] イリドウィルス感染症による被害が大きかった。**[マダイ]** 春先 6~10cm サイズの稚魚でエビテリオシスチス症が発生。

鹿児島県一[ハマチ] イリドウィルス感染症による被害が大きかった。**[カンパチ]** カリグス(寄生虫)の付きが非常に多く、その後の増体、二次感染症に影響が出る。ノカルジア症の発生、被害共に年々増加傾向。

【環境】

■ここ数年の魚病発生の傾向を診て見ますと、寄生虫(カリグス・ヘテロ・白点・肌虫等)の付きの多さが目立ちます。寄生虫が付着すると養殖魚の餌食いが落ち、成長が遅れます。

又、度重なる薬浴、淡水浴による体力の低下やストレス等で細菌症、ウィルス症の二次感染を引き起こし(人間と同じではないでしょうか)歩留まりの低下へつながるものと考えられます。

これら寄生虫の発生は、その年の気候(水温・降雨量等)も影響すると思いますが、今日までの養殖年数による漁場環境の悪化(老朽化)も一つの要因ではないかと思われます。最近、養殖場での、赤潮の発生が

多いの気になります。

■気候をコントロールすることは我々には出来ませんが、漁場環境(放養密度、給餌方法、底質等)の改善、整備はコントロール出来ると思います。海自身が自然浄化できる環境を整え、生産力の高い漁場となることを目指し共に頑張りましょう。

【ワクチン】

発売3年目となりましたハマチ連鎖球菌用経口ワクチンは、毎年使用生産者が増えております。これはワクチンの効果はもちろん、生産者の方々がワクチンに対しかなりの理解を示しているものと思っております。

又、昨年発売されましたマダイイリドウィルス用注射ワクチンも同様に使用されました生産者の方々の反応も良いものでした。

これらの傾向は、生産者の方々が「病気に対して予防する」という意識がかなり浸透してきている証拠だと思っております。

しかし、ワクチンも接種時に魚の状態が悪ければその効果は期待できません。ですから前述同様、漁場環境を整えて、より健康な魚に接種することでワクチンの効果はより期待することができます。

■今後もワクチンは、多魚種、多疾病を対象にして開発、発売されると思われます。生産者の皆様にワクチンに対し正しい理解を示していただけるよう我々も努力していきたいと思います。

●藤原 和宏

(株)サン・ダイコー 長崎営業所

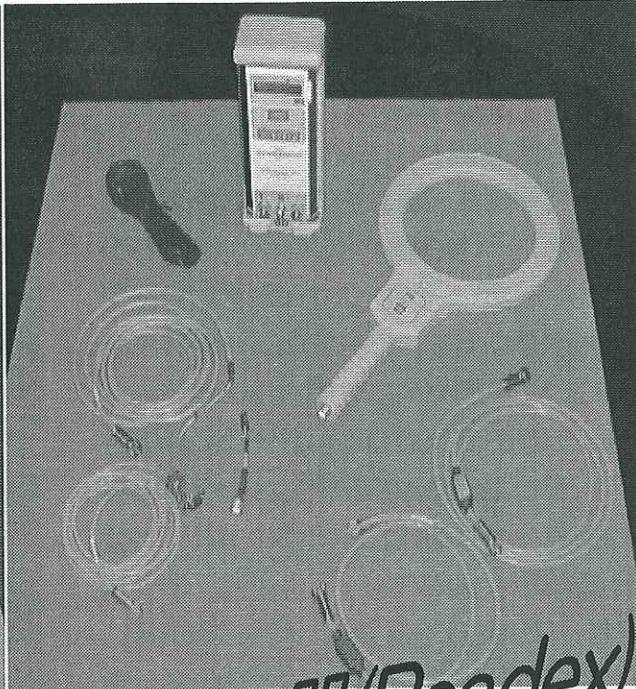
佐世保市広田2丁目 195-1

TEL0956(38)6312 FAX0956(38)6500

THE NEW PRODUCTS

感度がより鋭い、水中使用に適した新型のピットタグシステム

Model FS2001F Reader



新型読取器(Readex)

親魚管理、行動管理に威力を発揮！

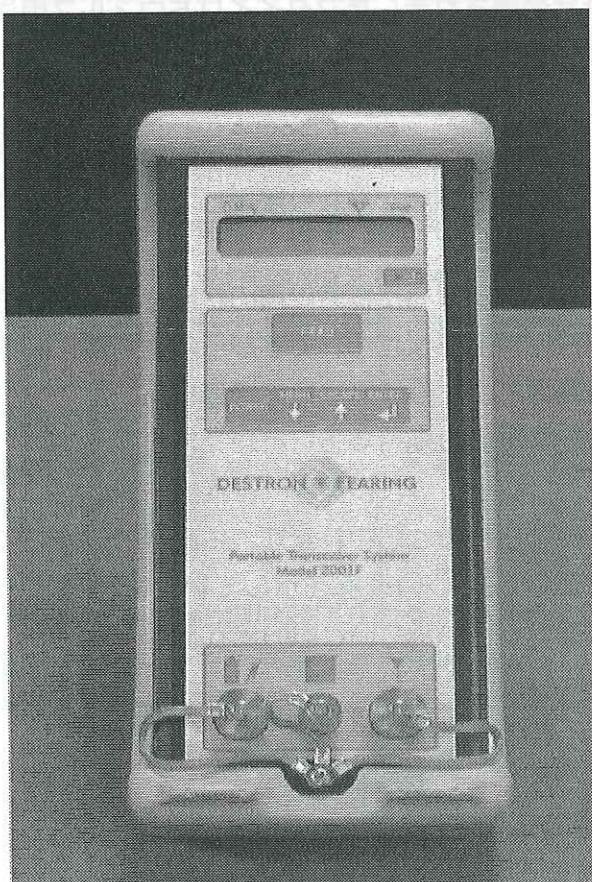
- I・防水型（水中使用可）
- II・Shockに強い
- III・Time Stamp付き
- IV・ソフトのup grade可能
- V・充電式電池(Nickel-Metal-hydride, 6時間寿命)と外部電源使用可。

* この読取器は従来のPITタグ[TX1410L, 1400L]

(周波数 125kHz)の読取は出来ません。

この読取対応のPITタグのSIZEは同じですが

周波数が【134.2KHZ】です。



株式会社

田中三次郎商店

〒838-0141 福岡県小郡市小郡 1139-1

TEL0942(73)1111 FAX0942(72)1911

e-mail : office@tanaka-sanjiro.com

ACNラウンジ

このコーナーは各社ブレイクタイムの「つい本音」をお届けしております

●フレッシュマン 皆様はじめまして。2000年あけましておめでとうございます。幸多き新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。さて、この度昨年11月1日付で、太平洋貿易㈱に入社致しました植松義博と申します。以前は、機械工具業界で仕事をしておりましたが、39才という年齢も考えずに転職を希望し水産業界へ飛び込んで参りました。少しでも早く業界、仕事に慣れ皆様のご迷惑にならぬよう最善を尽くす覚悟ではございますが、なにぶんにも未熟の身でございますので、なにとぞ多大の御指導お付き合いの程、宜しくお願ひ申し上げます。

太平洋貿易㈱ 営業部 植松 義博

*ACN ウォッチャーの声…百鬼夜行のこの業界。叩いた道場、指南を受けるには最適かも。

●昨年の「種苗生産フォーラム」では慣れない受付で皆様にはご迷惑お掛け致しました。最近はACNの若手メンバーで活動する機会が増え、現場へもお邪魔しよう企画しています。ちなみに、私は(仕事以外では)魚釣りが好きなので、一緒に遊んでもらえると非常に有り難いです。(ACNの後は釣ではなく○△にはまってますか…)

日清飼料㈱ 小林 一郎

*ACN ウォッチャーの声…「乙姫の予想で始まる新世紀」合掌。

●明けましておめでとうございます。今回からメンバーとなり右も左も分からず色々とご迷惑をお掛けすると思いますが、なるべく現場に近い情報を提供していきたいと思いますので宜しくお願ひ致します。

ヤンマーアート サンクスフェア-2000

■とき: 平成12年2月4日(金)~6日(日)
AM10:00~PM5:00

■ところ: グランメッセ熊本(熊本空港 ICそば)
日頃のご愛顧に感謝して、ヤンマー全商品を
一堂にラインナップ!!

●レジャーボート●漁船●ディーゼルエンジン
●コージェネシステム●ガスヒーポン●発電機
●建設機械●増養殖機器●関連企業出展コーナー

同時開催・歌謡ショー・女性和太鼓競演・屋台・飲食コーナーなどのお楽しみコーナー

『お立ち寄り楽しみにしております。』 海洋設備 G 担当一同より

主催/ヤンマーアート株式会社

(株)サン・ダイコー アグリ事業部 藤原 和宏

*ACN ウォッチャーの声…「現場が一番電話が2番、3,4が無くて麦焼酎」

●やる気になれば遊びも仕事に早変わり!
食える機種紹介致します。これであなたも青年実業家の仲間入り?

T商店 目押しの辰

*ACN ウォッチャーの声…今年もやります! やらせます! イーらいしゃいませ、イーらいしゃいませ!

●一年が経過し視力が低下、記憶力も低下し、さらに売上も低下? 上昇したのは血圧だけ! C工業 S談
*ACN ウォッチャーの声…「上手い! 座布団一枚持つといで!」

●YACN(ヤングアクアカルチャーネットワーク)発足計画中! 気の合う仲間で情報交換。入会条件はギャンブル好きに限ります。出張会合大歓迎!

C工業 F談

*ACN ウォッチャーの声…嗚呼! 座興とネーチャンのOACN達よどこへゆく。背中の銀杏が泣いている。

●ヤンマーアートでは、今年2月4,5,6日でヤンマー全製品(農業機械を除く)を一挙にラインナップした大展示会を開催致します。場所は熊本グランメッセです。素敵な粗品も準備しております。是非一度見て下さい!

ヤンマーアート マー坊

*ACN ウォッチャーの声…年始挨拶は、中九州中心が美味しいそう。マー坊赤頭巾チャンには気を付けて。



ACN 副会長新年ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。今年は2000年という節目の年もあり、『ACN』にとって設立以来10年を経過しました。いよいよ花咲かせ、実を結ばせなければならない新たなる10年のスタートという意義深い年の幕開けでもあります。

ここ数年来、我々の業界内に限らず暗い話や話題ばかりを耳にしておりますが、今年からは我々『ACN』の若いメンバーが中心となり、英知と行動力を持ってバブル経済崩壊の残滓を有効利用し、種苗業界の活性化に努力致さねばならない年でもあります。世界中の天然魚の漁獲が年を追う毎に急激に減少していることは明白な事実であります。それ故、特に魚介類を好む日本人のみならず、人間の魚肉タンパク質の必要性を考えると、我々のやるべき事は人類存亡のキャスティングボードを握っているという自覚を持って水産業界、強いては日本の養殖業界の牽引者として一翼を担わなければならぬと思います。

ところで、心配されておりましたコンピューターのY2Kによる被害は出なかつたでしょうか？人のすることに完璧はありませんが、問題点が出ればそれを解決することも人の出来ることであり、やるべき事だと思います。

『ACN』の新たなる10年に向かって、内容の充実とメンバーの拡充も一考を要するときであります。会報誌の配布やシンポジウムの拡大拡充により、日本国内はもとより世界へ『ACN』の存在を知らしめようではありませんか？新年の挨拶として大きな夢のような話をしましたが、夢の一部分でも早く実行、実現できることを祈念して挨拶とします。

2000年1月

大阪魚市場(株) 福田功一

謹んで新春のお慶び申し上げます。

昨年度は第8回種苗生産フォーラムに多数のご参加をいただき誠に有難うございました。
今年もACN一同総力を揚げて皆様と共に取組んでまいります。
宜しくお願い致します。

平成12年1月



上野製薬(株) 大阪魚市場(株) クロレラ工業(株) 九州積水工業(株)
ヤンマー九州(株) (株)サン・ダイコー 太平洋貿易(株)
(株)田中三次郎商店 ナテックス(株) 日清飼料(株) (有)松阪製作所
(株)山一製作所 ACN メンバー 12社